

A B r i e f N o t e N o . 2 2 0

発行日：2013年6月11日

萩・津和野の旅

吹田市 三輪 長司

先日、萩と津和野を初めて訪れた。往路は大阪からフェリーで門司まで行き、そこから門司港レトロや下関の唐戸市場を訪れながら、海岸沿いの国道を北上して、萩と津和野に泊まり、それから中国自動車道を一路大阪へ帰る行程だ。フェリー会社は九州の主な温泉旅館と提携してツアを用意しているけれど、山口方面へのツアーはまったくない。関西から山口への一般的な交通手段は、バス旅行か新幹線/駅レンタカーのいずれかだろう。いずれにしても萩や津和野へは高速道路はつながっていないから地道を走ることになる。

1. 時間が止まった萩の街、尊敬される吉田松陰

この二つの街は「日本のコッツウォルズ」だ。時間が止まっている。特に萩では江戸時代の地図が今でもそのまま使えるという。特に白壁の塀に囲まれた武家屋敷はほとんどそのまま残っており、しかも明治維新で活躍した志士の屋敷は公開されているものの、それ以外の屋敷は実際に使われている。道路は舗装されているが道幅は狭い。この歴史地区が完全に観光化されていない証拠として電線と電柱が見える。



萩菊屋家住宅



松下村塾

明治維新での萩の英雄は、維新の志士達に志士魂を注入した「吉田松陰」だろう。その吉田松陰を祀った「松陰神社」が広い境内に建立されている。その境内には松陰が自宅幽閉された当時の屋敷があり、志士達が学んだ「松下村塾」の小さな建屋もある。その横には大きな石碑があり「明治維新胎動の地」と彫られている。正にここから明治維新の胎動が始まったのだ。この小さな小屋のような建屋が、幕府を倒す志士養成の唯一の孵化器だったのだ。

その石碑の近くには、石の地蔵ほどの小さな石碑が2つ並んでいる。一つは天皇陛下、皇后陛下とあり、もう一つは皇太子殿下、皇太子妃殿下と彫られている。共に行幸啓の石碑だ。建立年月は前者が平成6年11月、後者が平成5年7月と彫られている。この立派な松陰神社は戦前に建立されたものだが、昭和天皇の行幸啓は見当たらなかった。吉田松陰は東京の靖国神社にも祀られているから、昭和天皇はそちらに参拝されていたのだろう。

2. 山口県は道路が立派、しかし萩に高速道路が接続していない不思議

山口県は首相を6人も輩出しているため、道路はどこまでも立派だ。山口県の西北端に浮かぶ角島には10年余り前に角島大橋が開通した。この橋はマリンドブルーの絶景の海にかかる全長1780mの通行料無料の全国有数の橋で、多くの観光客を引き付けている。この角島の海岸には全国トップクラスの息を呑むような美しいビーチが続いている。安倍現首相も山口県出身の6人目の首相だ。彼が「美しい日本を守る」と述べているのは、このような地元の美しさを指しているのだろうか。



角島大橋

しかし不思議なことに萩には未だに高速道路が繋がっていない。このことを旅館の売店の女性に話すと、「高速道路は田中角栄が握っていましたが」という返事が返ってきた。この話に納得すると共に驚いたのは、ご当地の人の政治意識が極めて高いということだ。現在は中国自動車道に接続する無料の高速道路が、萩まで半分程度の距離まで開通している。萩まで延ばす計画だろう。

田中派の高速道路利権は潰れてしまったのだろうか。

3. 時代に取り残され悲しい出来事、それを逆手に観光化に成功した津和野

津和野の時間の止まりかたは萩とはまったく違う。萩は時を意識的に止めたとすれば、津和野は時を動かすことが出来ず結果的に止まってしまった感じがする。そしてその後の時間の止めかたは明らかに「観光を意識した」ものに変化している。それは街の中心部の歴史的な建物が多く残っている道路の一定区間で、舗装に化粧を施し、道路脇に溝を設けて用水を流し、そこに菖蒲を植えて鯉を泳がせていることで判る。しかしこれは絵になる。



津和野町街路



津和野町役場

また津和野藩の家老の屋敷跡が、古い建物のままで津和野町役場として使われている。このような観光を意識した(?)パフォーマンスは萩では見られない。さらにこの道路に面してカトリック教会が建っている。これは幕末に長崎から流罪として送られてきたキリシタン百数十名を、神道色の濃い地元民が信者に拷問を加えて改宗を迫り、40名を殉教させてしまった償いのために、のちのドイツ人によって建てられたものだそうだ。教会は内部が椅子ではなく珍しく畳が敷かれている。これも開放され観光化している。

4. 水が豊富で水質が良い津和野、島根県の遅れた道路

たまたま今回泊まった宿が街で一軒しかない温泉宿だけれど、歌手の「さだまさし」の定宿だという。彼はこの街のそばの山上からの眺めを歌にして「案山子(かかし)」を作曲したそうだ。彼は長崎人だから上記の悲しい出来事と何か結びつくのかもしれない。さだまさしの歌は癒し系の歌だから、この街がかもし出す癒しの波長と合うのだろうか？

なお津和野には造り酒屋が多く、美味しい地酒があった。宿の料理も美味かったことから水が良いのだろう。近くの高津川は水質日本一だそうで鮎の名産地だ。

津和野は島根県の西端にある。このため道路が悪い。萩から来るとこの落差

がよく判る。

津和野から中国自動車道の六日市 IC へは、山一つ隔てた隣なのに、まともな道がなく国道を大回りしなければならない。島根県には政府の投資は少なかったのだろう。山口県が勝ち組だとすれば島根県は負け組だ。しかし開発から取り残され、それを逆手に観光に生かしている津和野は、逆転の発想で成功しているといえるだろう。

5. 津和野の饅頭「源氏巻」に伝わる吉良上野介への賄賂

津和野には「源氏巻」という昔から伝わる饅頭がある。三笠饅頭を平たく巻いた形だが、この饅頭のいわれが面白い。津和野藩三代藩主亀井茲親が元禄 11 年、幕府より勅使の饗応役を命じられた際、指導役の吉良上野介から陰湿ないじめを受け、堪忍できなくなった茲親が吉良を切り捨てる腹を決めた。これを知った家老の多胡真蔭が「菓子源氏巻」と称して、吉良に小判の賄賂を送って事なきを得たといわれる。

この話の真偽はともかく、饗応役を 3 度も無事に務め上げ幕府の覚えも良かったことから、津和野藩の家老は賢明だったのだろう。この件で津和野藩と赤穂藩は正反対の動きをした。これは隠れた「忠臣蔵(?)」の話として誠に興味深い。

6. 時間を止めた仕掛け、「SL やまぐち号」が津和野観光に一役

ところで現在、新山口と津和野を結ぶ JR 西日本の山口線 63km に、SL 列車「SL やまぐち号」が 2 時間かけて定期的に運行している。これが SL ファンには大変な魅力だ。ここを走っている SL は「C571 (シゴナナイチと呼ぶ)」の型式で、優美な姿から「貴婦人」と呼ばれ、かつてはお召し列車を牽引した機関車で、完全分解補修(フルリストア)されたものだ。この SL のフルリストア作業は NHK が以前に放送していた。

現在イギリスを始め世界中で蒸気機関車の保存鉄道が盛んになっているが、蒸気機関車がフルリストアされたのは日本が初めてで、その機関車がこの C571 だそう。このため製造当初の性能が完全に復元維持されている。JR 山口線はカーブが急でしかも勾配もきつい。このためフルリストアした蒸気機関車でなければ運行できないそう。これは積極的に時間を止めた仕掛けだろう。これには莫大な費用がかかったものと思われる。♪♪♪

以上